

宮崎県拠点の
Webサイトは
こちらから



宮崎県拠点だより



農作業中の熱中症に注意しましょう ～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

毎年、約30名の方が熱中症により死亡しています。しかも、死亡事故の約85%が7～8月に集中しています。

また、比較的作業のしやすい時期（3～6月）においても、ビニールハウス等で発生しています。

熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

* 予防のポイント *

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う

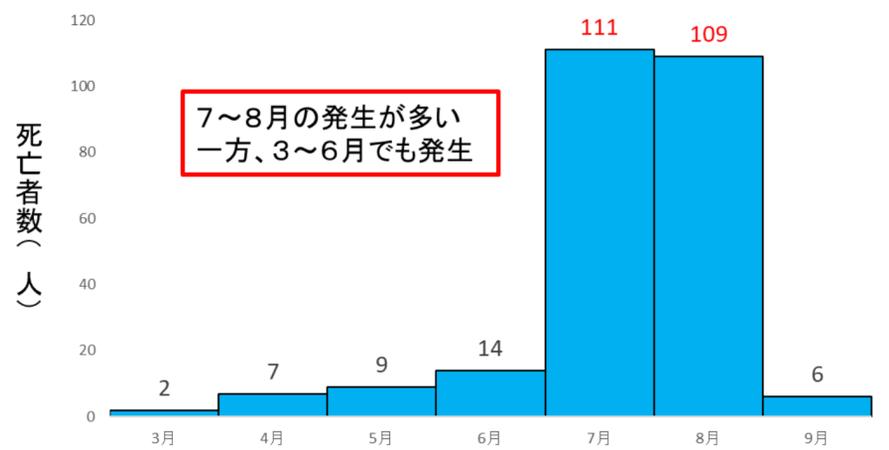


熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



農作業中の熱中症による死亡者数
月別（平成24～令和3年）



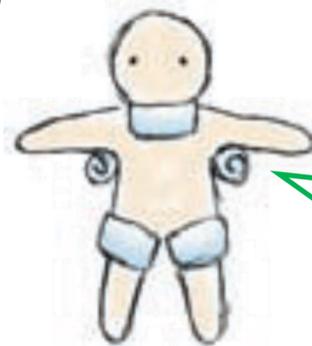
7～8月の発生が多い
一方、3～6月でも発生

※発生月が不明な事故が1件あるため、総数は他のグラフと異なっている

もしも熱中症にかかったら？

① 応急処置

- ・ 涼しい環境へ避難しましょう。
- ・ 服をゆるめて風通しをよくしましょう。
- ・ 水をかけたり、扇いだりして体を冷やしましょう。
- ・ 水分・塩分を補給しましょう。



脇の下、両側の首筋、足の付け根を冷やすと効果的です

② 病院へ

- ・ 意識がない場合、自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても症状が改善しない場合は、すぐに医療機関で診察を受けるようにしてください。



「棚田アート」の田植えに参加

6月17日、高千穂町中川登地区の「棚田アート」は、中山間地域の活性化を図ることを目的に12年前から続いています。今年の田植えには、地域住民の外に町内外から親子連れなど総勢100名近い参加があり大変盛況でした。

今回の作品のテーマは、昨年開催された全国和牛能力共進会において高千穂選出の牛が日本一に、さらに、ワールドベースボールクラシックにおいて日本が世界一に輝いたこと。また、メジャーリーガーの大谷選手と本県次世代エース種雄牛「二刀流」の活躍をイメージしたとのこと。

これから色とりどりに生長する稲が、その絵柄を浮かび上がらせます。

宮崎県拠点では参加者に、「みどりの食料システム戦略」を説明し理解を求めました。



参加者の集合写真

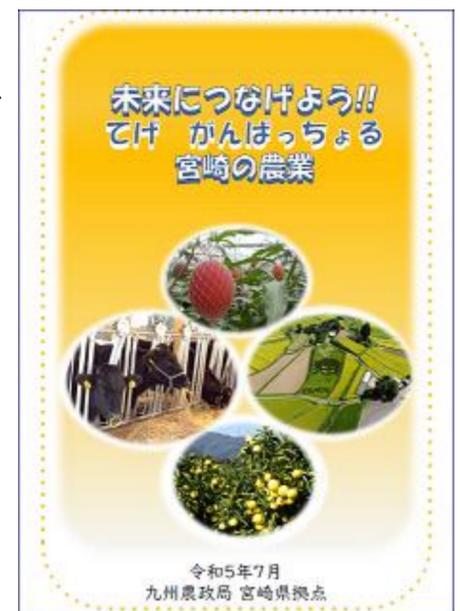


今回のテーマ絵柄と田植えの様子

「未来につなげよう!! てげがんばっちょる 宮崎の農業」を発行

宮崎県拠点では、G7宮崎農業大臣会合が宮崎市で開催されたことを契機として、小学校高学年を対象に、未来に向かって、美しい農村風景や豊かな食生活を維持し、環境を大事にした農業の営みができるように、宮崎の農業の大切さを伝えていくジュニア版広報誌を発行しました。

宮崎県拠点のホームページにて広報誌を公開していますので、下記2次元コードから是非ご覧ください。



- 本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。
- 宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985 - 24 - 2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

宮崎県内では、連日朝から気温が上昇して熱中症警戒アラートが発表されています。場所によっては30℃を超える真夏日となっていますので、農作業は適切に予防して外出はなるべく避け、室内をエアコンなどで涼しい環境で過ごしましょう。農林水産省では今年5月から9月を「熱中症対策強化期間」と位置づけています。熱中症は7月頃に増える傾向があるので対策が重要です。(ジョー)